

南アフリカ 生食用ブドウの収穫は早期に終了の見込み

EUROFRUIT 2024年2月17日

生食用ブドウ業界は昨年よりもさらに早くシーズンが終了すると予測

南アフリカの生食用ブドウ生産者らは、第14週(4月初旬)に最後のブドウが収穫された昨年よりも今年は早く収穫を終えると予想されている。

業界団体のSATI(南アフリカ生食用ブドウ産業協会)によると、南アフリカのブドウの収穫量は第6週(2月上旬)までに総収穫量の4分の3を超え、推定総出荷量の78%(5,950万箱)が梱包されており、これは18%の増加となる。

同協会は、「出荷シーズンは、第14週に終了した昨年よりも早く終了すると予想される。シーズンの早期終了は、シーズンの残りの期間に向けて計画を立て、うまく対応する必要性を示している。これは、出荷契約が確実に守られ、果実が適切な市場に出荷されるようにするためである」としている。

EU市場の安定性、果実の品質、雨や天候のパターン、為替レートのすべてが、シーズン全体の結果に影響を与えた。

同協会のシーズン予想の最新の更新に関わったエクサ社(ブドウ生産)のニコ・ロー販売部長は、「生産者と輸出業者は、常に市場の要因を把握し、最も実行可能な商業的決定を下す必要がある」と述べた。

第6週までに4,660万箱が輸出され、これは前年同期と比べて19%多い。

同協会は、業界は輸出のために様々な物流戦略を駆使し続けて来たとして、「コストが上昇したので理想的とは言えないが、第6週の輸出のためにさらに180万箱が(遅延しがちな)ケープタウン港から(稼働が順調な)ポートエリザベス港に移送され、今シーズンこの港(後者)から輸出されたブドウの総量は470万箱となり、これまでの全輸出量の10%を占めた」と説明している。

また、非コンテナ冷蔵船も第6週に約100万箱のブドウを運び、非コンテナ船による輸出は今シーズンこれまでの総輸出量の10%に達した。

ロー氏は、ヘックス川流域の一部の地域で降雨と降雹があり、特定の品種の品質と輸送耐性に影響を与えたと言及、「このことは、一部の市場向けにオータムクリスプとスイートグローブの出荷量を増やす機会を提供した」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

「引き続き物流の遅延が課題となっている。非コンテナ船や別の港を利用するなどの代替案が推奨される。」

これまでのところ、欧州での販売は好調である。「紅海の危機のため、インドがEU市場に出荷する量は減少すると予想されていた。しかし、今年は量が増えたようである。」

同氏は、英国は引き続き、南アフリカ産ブドウの最も安定した市場の1つであると述べた。

「品質を最優先に考え、出荷前の果実を長期間貯蔵しないことが推奨される。これまでのところ価格は予想どおりに推移しており、在庫量も安定してきている。」

一方、物流の遅れが米国とカナダに到着するブドウに大きな影響を与えている。

「このため、これらの市場への出荷計画を立てることが難しくなっている。南アフリカ産の晩生の赤ブドウは、チリ産の品種と競合しつつも、今シーズン、これらの市場で好調であった。」

執筆者: フレッド・メインチェス